

Zoomウェビナーのチャットで行われた質疑応答の記録

事例発表会では、Zoomウェビナーのチャット機能を使って一部の質疑が行われましたが、発表者の回答を参加者がみられなかったことから、該当のチャット質疑応答を後日整理することとしました。

その質疑応答の記録を、以下に紹介します。

【大分県農林水産部地域農業振興課広域普及指導班 主査 河野 雅俊 氏】

質問：PTの中での県と市町村の役割分担についてもう少し詳しく教えていただきたいです。市町村によっては独自の施策を打ち出したところもあったのでは。

回答：市町村も当然個別目標がありますが、大分県では「技術者協議会」を毎月果樹関係者で実施し、課題解決に向けた協議を行っています。その中で前提条件や課題対応等が共有されていく流れができています。

質問：2点、質問させていただけますと幸いです。①団地造成の場合、補助事業の実施主体はどこになりますでしょうか。②団地造成後、入植者が見つかるまでの管理はどこが担うことになりますでしょうか。

回答：①補助事業実施は当然「担い手」です。「地権者」ではありません。②入植者が見つかったから事業実施しますので、中間管理期間は存在しません。

質問：大規模園地を整備するなかで他の露地野菜等の品目と競合、取り合いになったりしないのでしょうか

回答：大分県では直近まで推進品目に果樹が上がっていなかったもので、白ネギやピーマン・甘藷といった品目と競合することがありました。そこで、目を付けたのが「雑木が生えた遊休地」「石礫が多い農地」など野菜では選択しないような遊休農地を中心に土地情報を集積しています。現在では、うまく棲み分けができています。

質問：大分県の新団地形成で、新規就農者群で構成した団地もあるのでしょうか？ その場合、品目選定、マッチングなどはどのようにまとめられたのでしょうか？

回答：新規就農者だけで構成した団地もあります。各地域でファーマーズスクールの受け入れ品目（地域の推進品目）が設定されていますので、新規就農希望者は相談会から好きな品目がある地域へ流れていくような形です。

質問：大分県の事例で、参入支援PTのリーダーは誰がやっておられるのか？ 広域普及員とはどのような活動をされる方ですか？

回答：広域普及指導員は革新支援専門員の大分県呼称です。活動内容は多岐に渡るためここで説明しきれませんが、私の場合は果樹・茶の振興に関するすべてです。各地域担当普及員の活動を支援指導するエリアマネージャーのような形です。各地域のPTは関係者の方も初めて担当など不慣れな方が多いので、当初の立ち上げだけ広域普及員等が支援して各地域担当へおまかせしていく流れが多いです。0→1の部分を補助するような感じです。技術指導は当然ですが、各種事業や振興施策に精通していることが求められます。

【農事組合法人世羅幸水農園 組合長理事 光元 信能 氏】

質問: 世羅幸水園さんでは、もともとの組合員が持っていた園地を集積して法人化されたと思いますが、以前の組合員の土地ではない部分を造成して生産を拡大したことはありますか？

回答: 当初創立時に耕作した土地は町が一括購入したもので、それを農園が長期的に取得していく方法でしたので、組合員の土地とか樹とかの観念はなくすべて農園の財産です。